

生育遅れからやや回復

茎数に応じた水管理を徹底しましょう!

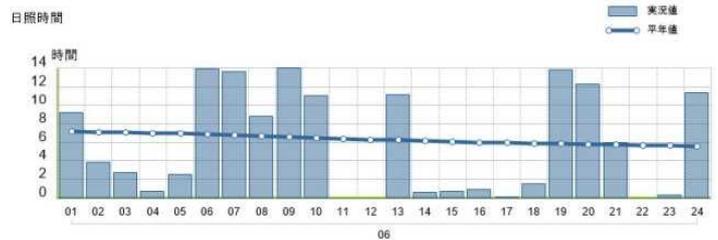
1 これまでの気象経過 (6/1~6/24)

東北部の梅雨入り(速報値)は、前年より9日早く、平年より1日早い6月14日頃となりました。

気温は、6月6日以降高温傾向で経過しました。15日以降は最高気温、最低気温が高く、平均気温が高く経過しました。

日照時間は、中旬にかけて少照となりました。

降水量は、全体として少なく経過し、大雨はみられませんでした。



2 6月25日現在の生育状況

○定点調査結果 (6月25日)

6月25日現在の管内水稻定点調査ほ(9地点、品種:あきたこまちR)の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数は少なく、葉数はやや少なく、葉色は並みとなりました。

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)	葉色
本年	40.3	336	8.7	44.1
平年	37.1	404	8.9	44.1
前年	39.3	390	9.4	41.4
平年比較	109%	83%	-0.2	100%
前年比較	103%	86%	-0.7	107%

※平年は過去10カ年の平均値 ※葉色はSPAD-502で測定

葉数は、気温が高く推移したことから進展が早まりましたが、平年よりやや遅れています。

草丈は、6月中旬の少照と高温傾向により急伸長しました。

茎数は、5月25日前後の移植で低温の影響を強く受けたほ場で初期分けつの発生が少なくなりました。また、疎植のほ場では茎数が少ない傾向にありました。そのため、ほ場間で茎数に大きな違いが見られます。

ほ場の茎数を確認したうえで、状況に応じた水管理を実施してください。

3 今後の水管理

◆分げつが十分に確保できていない場合

- 目標穂数（450本/㎡程度）と同等の茎数（70株植えて平均21本/株、60株植えて平均25本/株）が確保できていない場合は、気温の高い日や日照の多い日は分けつの発生を促進する浅水管理で水温と地温を高めてください。
- 茎数確保のために中干しの開始が遅れても、幼穂形成期（7月15日頃）までには中干しを終えてください。また、強い中干しは避けてください。

◆分げつが十分に確保できている場合

- 目標穂数と同等の茎数が確保できたほ場では、速やかに中干しを始めてください。
- 中干し期間は7～10日程度とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡のつく程度とします。中干し終了後は、間断かん水により土壌を酸化的条件に保ち、根の伸長を促進します。
- 中干し始めに溝切りをすることで、その後のスムーズな水管理や秋作業に役立ちます。積極的に実施しましょう！

【カドミウム吸収抑制対策について】

- カドミウム汚染米発生が懸念される地域で「あきたこまちR」以外の品種を作付けする場合は、出穂前後各3週間（平年で7月15日～8月25日頃）は水田に常に水が張られた状態を保ち、田面を空気に触れさせないようにします。

4 主要病害虫の防除

— 飼料用米も主食用米と同様の防除対策を行ってください —

【いもち病】

- 補植用余り苗は、葉いもちの強力な伝染源になります。畦畔等に放置せず直ちに泥の中に埋めるなどして完全に処分してください。
- 梅雨入り後は、感染に好適な時期です。ほ場を巡回し発生状況を確認して下さい。

【斑点米カメムシ類】

- 本県の主要加害種であるアカスジカスミカメは、ホタルイ、シズイやノビエの穂に産卵して増殖します。水田内の雑草対策は確実に行ってください。
- 昨年水田内に雑草が多発したほ場では、本年も雑草の多発が懸念されます。雑草の発生状況に応じて適切な中・後期除草剤を選択してください。散布時期や水管理は剤によって異なるので、ラベルをよく読み適正に使用してください。また、初期除草剤や一発処理除草剤と同じ成分を含む中期剤もあるので、成分名とその使用回数をよく確認してください。
- 稲の出穂する15～10日前までには、畦畔・休耕田・農道・堤防等を対象に地域で一斉に除草を数回行い、ほ場周辺のイネ科雑草の除去に努めましょう。

★お知らせ★

水稻、大豆栽培に関する情報をLINEでリアルタイムに発信しています。
(秋田県内の水稻・大豆の生育技術情報、異常気象対策等)
右のQRコードから友達登録してご活用ください。



不明な点がある場合は、山本地域振興局農林部農業振興普及課(TEL52-1241)までご連絡ください。